EasyBlocks

Plat'Home
TECHNOLOGY to serve you.

EasyBlocks Remote Office

ユーザーズガイド

ファームウェア Ver1.0.1 以降に対応

対象モデル

EBX9/ROS、EBA7/ROC、EBB0/ROC

ユーザーズガイド 1.0.3（2020/10/06）

■ 商標について

- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- その他記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

■ 重要なお知らせ

本書の内容の一部または全部を、無断で転載することはご遠慮ください。

本書の内容は予告なしに変更することがあります。

本書の内容については、正確を期するように努めていますが、誤り等に起因する結果について責任を負いかねます。

目次

1. はじめに 6
1.1. 各部の名称 6
1.1.1. 型番: EBX9/ROS 6
1.1.2. 型番: EBA7/ROC 7
1.1.3. 型番: EBB0/ROC 8
1.2. ケーブルクランプの取り付け 9
1.2.1. 型番: EBX9/ROS 9
1.3. ステータスインジケーターの点灯について 10
1.3.1. 型番: EBX9/ROS 10
1.3.2. 型番: EBA7/ROC 10
1.3.3. 型番: EBB0/ROC 10
1.4. 出荷時設定情報 11
1.4.1. IP アドレス 11
1.4.1.1. 型番: EBX9/ROS 11
1.4.1.2. 型番: EBA7/ROC 11
1.4.1.3. 型番: EBB0/ROC 11
1.4.2. WEB I/F の URL 11
1.4.2.1. 型番: EBX9/ROS 11
1.4.2.2. 型番: EBA7/ROC、EBB0/ROC 11
1.4.3. WEB I/F の管理者ユーザー 12
1.4.3.1. 型番: EBX9/ROS 12
1.4.3.2. 型番: EBA7/ROC、EBB0/ROC 12
1.4.4. シリアルコンソール/SSH 用 管理者ユーザー 12
1.4.4.1. 型番: EBX9/ROS 12
1.4.4.2. 型番: EBA7/ROC、EBB0/ROC 12
2. 親機の設置・初期設定 13
2.1. 設置・設定のステップ 13
2.2. 初期設定 14
2.2.1. 設定端末の設定 14

2.2.2. WEB 操作画面の表示 15
2.2.3. 使用許諾契約書の確認 16
2.2.4. 初期設定 17
2.2.5. ネットワークの設定 19
2.2.6. IP ルーティングの設定 21
2.2.7. サービスの設定 23
2.2.8. 装置の停止 24
2.3. 設置 25
3. 親機の WEB 操作画面 26
3.1. ダッシュボード 27
3.2. Remote Office 28
3.2.1. サービス 28
3.2.2. ファイル管理 30
3.2.3. アップデート 32
3.2.4. 一括登録 33
3.3. システム 35
3.3.1. 時刻設定 35
3.3.2. フィルタ開放 38
3.3.3. WEB 管理者 40
3.3.4. マイページ 41
3.3.5. EasyBlocks 42
3.3.6. S/N 43
3.4. ネットワーク 44
3.4.1. 基本 44
3.4.2. プロキシ 47
3.4.3. ルーティング 49
3.4.4. 状態 50
3.4.5. ダイナミック DNS 51
3.5. メンテナンス 53
3.5.1. 設定 53
3.5.2. システムの更新 54
3.5.3. 停止・再起動 56

3.5.4. サポート 56
3.6. AirManage 57
3.6.1. AirManage 57
3.6.2. AirManage 登録 60
4. Remote Office サービス詳細設定 63
4.1. 設定管理用ツールのダウンロード 63
4.1.1. 非インストーラー版の場合 63
4.1.2. インストーラー版の場合 65
4.2. フィルタ開放 67
4.3. 詳細設定 68
4.3.1. 接続設定の構築 68
4.3.2. VPN サーバーの構築 69
5. 子機の設置 73
5.1. 有線対応子機(型番:EBA7/ROC)の場合 73
5.1.1. 設置ステップ 73
5.1.2. 子機のネットワーク接続 73
5.1.2.1. 家庭用ネットワーク接続 73
5.1.2.2. PC とのネットワーク接続 74
5.1.3. 子機の電源投入 74
5.2. 無線対応子機(型番:EBB0/ROC)の場合 75
5.2.1. 設置ステップ 75
5.2.2. 家庭用ネットワーク接続 75
5.2.3. 子機の電源投入 76
5.2.4. PC とのネットワーク接続 77
6. その他利用方法 78
6.1. SSH でログイン(親機のみ) 78
6.2. シリアルコンソールでログイン(親機のみ) 78
6.3. ファクトリーリセット(親機のみ) 79
6.4. BIOS 設定(親機のみ) 80
7. 注意事項 81
7.1. 電源断について 81
7.2. ポート転送について 81

7.3.　アクセスポイントの自動リセット(型番:EBB0/ROC のみ) 81
7.4.　無線接続クライアント数について(型番:EBB0/ROC のみ) 82
7.5.　子機の通信速度・負荷について 82

1. はじめに

1.1. 各部の名称

1.1.1. 型番: EBX9/ROS

■ 前面コネクタ

■ 背面コネクタ

1.1.2. 型番: EBA7/ROC

■ 前面コネクタ

■ 背面コネクタ

1.1.3. 型番: EBB0/ROC

1.2. ケーブルクランプの取り付け

1.2.1. 型番: EBX9/ROS

AC-IN 上の穴に添付のクランプを差し込みます

1.3. ステータスインジケーターの点灯について

1.3.1. 型番: EBX9/ROS

状態	ステータスインジケーター
停止中	ステータスインジケーターは消灯しています。
起動処理中・停止処理中	ステータスインジケーターは黄色点灯しています。
稼働中(通常稼働中)	ステータスインジケーターは緑点滅しています。
稼働中(AirManage 加入失敗時)	ステータスインジケーターは赤点灯しています。

1.3.2. 型番: EBA7/ROC

状態	ステータスインジケーター
起動処理中	ステータスインジケーター全色点灯します。
稼働中(通常稼働中)	ステータスインジケーターの各色が順次点滅します。

1.3.3. 型番: EBB0/ROC

状態	ステータスインジケーター
起動処理中	ステータスインジケーターが黄色点灯します。
稼働中(通常稼働中)	ステータスインジケーターの各色が緑点滅します。

※本製品では、Ethernet 通信ランプをステータスインジケーターと兼用します。そのため、起動処理及び稼働中のステータスインジケーターが上記内容に加え白色が入ります。

1.4. 出荷時設定情報

1.4.1. IP アドレス

1.4.1.1. 型番: EBX9/ROS

インタフェース	IP アドレス	ネットマスク
Ether-0(eth0)	192.168.254.254	255.255.255.0
Ether-1(eth1)	未設定	未設定
Ether-2(eth2)	未設定	未設定
Ether-3(eth3)	未設定	未設定

1.4.1.2. 型番: EBA7/ROC

インタフェース	IP アドレス	ネットマスク
Ether-0(eth0)	DHCP クライアント	ネットワークに依存
Ether-1(eth1)	未設定	未設定

1.4.1.3. 型番: EBB0/ROC

インタフェース	IP アドレス	ネットマスク
Ethernet	DHCP クライアント	ネットワークに依存
WLAN	未設定	未設定

1.4.2. WEB I/F の URL

1.4.2.1. 型番: EBX9/ROS

http://192.168.254.254:880/

※Edge、Chrome、Firefox 等の最新バージョン利用を推奨します。尚、WEB I/F では JavaScript を使用していますので、JavaScript は有効にしてください。

1.4.2.2. 型番: EBA7/ROC、EBB0/ROC

本製品は未搭載です。

1.4.3. WEB I/F の管理者ユーザー

1.4.3.1. 型番: EBX9/ROS

初回アクセス時に、ご自身で設定していただきます。

1.4.3.2. 型番: EBA7/ROC、EBB0/ROC

設定はありません。

1.4.4. シリアルコンソール/SSH 用 管理者ユーザー

1.4.4.1. 型番: EBX9/ROS

シリアルコンソールや SSH でのアクセスをしなくとも運用管理は可能ですが、必要な場合は以下の ID・パスワードを使用してください。

ID	ebsupport
パスワード	ebremote

※ebsupport ユーザーは sudo コマンドにて bash を使用可能です。そのため、sudo bash 後に必要に応じてコマンドをご使用ください。

1.4.4.2. 型番: EBA7/ROC、EBB0/ROC

管理不要の為、対応しておりません。

2. 親機の設置・初期設定

2.1. 設置・設定のステップ

2.2. 初期設定

2.2.1. 設定端末の設定

設定端末から WEB 操作画面にアクセスするための準備を行います。以下の手順で設定端末に設定を行ってください。

1. 本装置の ETHER-0 に設定端末を接続する。
2. 設定端末に 192.168.254.0/24 のホストアドレス（192.168.254.254 を除く）を設定する。

以下に設定端末の設定例を記します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.254.1
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	なし
DNS サーバアドレス	なし

表 2-a 設定端末の設定例

図 2-a 初期設定時のネットワーク構成

2.2.2. WEB 操作画面の表示

設定端末の WEB ブラウザで以下の URL を開いてください。

http://192.168.254.254:880/

2.2.3. 使用許諾契約書の確認

使用許諾契約書の内容に同意する場合は「同意する」と書かれたボタンをクリックしてください。「同意しない」をクリックした場合、次の画面に進むことは出来ません。

2.2.4. 初期設定

管理者アカウント設定を行います。手順は以下のとおりです。

1. 各設定項目に値を入力する。
2. 保存ボタンをクリックする。

各設定項目の詳細については、以下の表をご確認ください。

◆ 管理者アカウント

設定項目	説明
ユーザー名	管理インタフェースへのログインに使用します。英数字を使用することが出来ます。
パスワード	管理インタフェースへのログインに使用します。
パスワード（確認）	入力したパスワードが意図したとおりの値であることを確認するために、再度、パ

	スワードを入力してください。パスワードと一致しない場合は、再度、設定していただくことになります。

2.2.5. ネットワークの設定

ネットワークの設定を行います。手順は以下のとおりです。

1. 各設定項目の値を入力する。
2. 保存ボタンをクリックする。

設定項目は以下のとおりです。

◆　共通設定

設定項目	説明
ホスト名	ホスト名を入力してください。英数字およびハイフンを使用する事が出来ます。
ドメイン名	ドメイン名を入力してください。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定してください。
DNS サーバ１～３	DNS サーバの IP アドレスを設定してください。DNS サーバが２つ以上存在する場合は、DNS サーバ２および３にも DNS サーバの IP アドレスを入力してください。

◆　サービスネットワーク(eth0～eth3)

設定項目	説明
使用する	サービスネットワークで使用する本装置のインターフェースを「静的 IP」選択してください。 また、ローカルブリッジとして用いるインターフェースに関しては、「ローカルブリッジ」を選択してください。
IP アドレス	サービスネットワークで使用する本装置のインターフェースの IP アドレスを入力してください。

2.2.6. IP ルーティングの設定

サービスネットワークに接続した際に、操作端末から本装置にアクセスするために IP ルーティングの設定が必要である場合は、IP ルーティングの設定を行ってください。手順は以下のとおりです。

1. ネットワークタブをクリックする
2. ネットワークタブ内のルーティングタブをクリックする。
3. ネットワークアドレスおよびゲートウェイに、適宜、値を入力し、保存ボタンをクリックする。

保存したルートは画面下部の一覧に表示されます。既に設定したルートの編集や削除を行いたい場合は一覧の「編集/削除」をクリックしてください。設定項目は以下のとおりです。

◆　ターゲットとゲートウェイ

設定項目	説明
ネットワークアドレス	ネットワークアドレスとネットマスク(プレフィックス長)を指定してください。
ゲートウェイ	ゲートウェイアドレスを設定してください。

2.2.7. サービスの設定

設置前に設定を完了したい場合は、サービスの設定を行ってください。設定方法については「3.2.1 サービス」をご確認ください。

2.2.8. 装置の停止

装置を停止します。手順は以下のとおりです。

1. メンテナンスタブをクリックする。
2. メンテナンスタブの中の停止・再起動タブをクリックする。
3. 「停止・再起動」の「停止」の横にある「ボタンを表示/非表示」ボタンをクリックする。
4. 「停止・再起動」の「停止」の横にある「実行」ボタンをクリックする。
5. 停止画面に遷移したら、実行ボタンをクリックする。
6. 「本当に実行しますか？」とポップアップが表示されるので、OK をクリックする。
7. ステータスインジケーターの消灯を確認後、電源ケーブルと LAN ケーブルを抜く。

2.3. 設置

図 2-b 設置例

本装置をサービスネットワークに接続します。手順は以下のとおりです。

1. 本装置の使用するネットワークインターフェースに LAN ケーブルを接続する。
2. 本装置に接続した LAN ケーブルを、サービスネットワークのスイッチやルータに接続する。
3. ローカルブリッジを用いる場合、ローカルブリッジ用のネットワークインターフェースと該当のネットワークの LAN ケーブルを接続する。
4. 本装置に電源ケーブルを接続する。

3. 親機の WEB 操作画面

ログの閲覧、設定変更を行う場合は、操作端末から WEB ブラウザで操作画面を開いてください。手順は以下のとおりです。

1. 操作端末の WEB ブラウザで以下の URL を開く。
   http://＜使用ネットワークインターフェースの IP アドレス＞:880
   例）http://192.168.1.1:880
2. 初期設定で設定したユーザー名およびパスワードを入力し、ログインボタンをクリックする。

図 3-a ログイン画面

3.1. ダッシュボード

システム全体の概要を表示します。各項目の詳細は以下の表のとおりです。

◆ ハードウェアリソース

項目	説明
CPU ロードアベレージ	過去 1 分間、過去 5 分間、過去 15 分間の CPU 負荷平均値です。
メインメモリ	表示される内容は以下のとおりです。 使用中/全体
ストレージ	表示される内容は以下のとおりです。 使用中/全体

◆ ネットワーク

項目	説明
FQDN	FQDN とは完全修飾ドメインのことです。ホスト名とドメイン名を結合した値が表示されます。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイが表示されます。
IPv4 アドレス(インターフェース名)	各インターフェースに割り当てられた IP アドレスが表示されます。

3.2. Remote Office

Remote Office 機能の操作画面です。

3.2.1. サービス

◆　起動

Remote Office サービスを有効にする場合は「有効」を、無効にする場合は「無効」を選択してください。

◆　設定管理用ツール

Remote Office サービス自体の設定を行う場合には、設定用ツールが必要となります。右部にある「リンク」ボタンにてリンク先のタブから「4Remote Office サービス詳細設定」を参考に設定管理用ツール(SoftEther VPN Server Manager)のダウンロードを行ってください。

設定管理用ツールでの設定では EasyBlocks Remote Office(親機)のフィルタ開放を行っている必要があります。後述の「3.3.2 フィルタ開放」を参考にポート開放を行ってください。

◆　バージョン

Remote Office サービス自体のバージョンが記載されています。

◆　プロセス操作

意図しないサービスの停止等が発生したなど向けに、サービスプロセス再起動が行えます。

プロセスの再起動を行いたい場合には、「プロセスの再起動」ボタンを押してください。

3.2.2. ファイル管理

◆ ファイル管理

Remote Office サービス自体にて用いているファイル一覧を確認できます。また、各種ログファイル等を選択し、「ダウンロード」ボタンを押すことによりダウンロードすることができます。

※上図の「vpn_server.config」というファイルが詳細設定ファイルです。詳細設定完了後、ダウンロードすることを推奨いたします。

◆ アップロード

アップロードプレフィックスにファイルをアップロードしたいディレクトリパスを設定します。また、ファイルを選択し、アップロードボタンを押すことでファイルを EasyBlocks Remote Office 内にアップロードすることができます。

※アクセス制限機能である「adminip.txt」ファイル等は本機能からアップロードしてください。

3.2.3. アップデート

◆ アップデート確認

インターネット環境を用いて Remote Office サービス自体のアップデートの確認が行えます。

◆ アップデート

インターネット環境を用いて Remote Office サービス自体のアップデートが行えます。

本処理は AirManage サービスを使用している必要があります。そのため、事前に AirManage サービスへ加入してください。

3.2.4. 一括登録

◆ 一括登録

Remote Office サービスの詳細設定で仮想 HUB の作成まで完了している状態において、CSV ファイルを入力することにより一括でユーザーの作成及びパスワードの設定が行えます。

尚、本機能では Remote Office サービスにアクセスして設定しています。そのため、Remote Office サービスを起動する必要があります。また、アクセス制限(adminip.txt)を行っている場合には、localhost(127.0.0.1)からのアクセスを許容するように設定してください。

項目	説明
管理者パスワード	Remote Office サービスの管理者パスワードを入力します。 **※WEB UI の管理者パスワードではありません。**
使用ポート	Remote Office サービスにて用いているリスナーの使用ポートを入力してください。
ユーザー登録ファイル	登録及びパスワードを設定するユーザーの CSV ファイルを選択します。

CSV ファイルの 1 行目はコメント行として扱う為、読込対象外となります。また、[ユーザーID]、[ユーザーパスワード]、[仮想 HUB 名]が定義されている行のみが処理対象となります。

CSV ファイルフォーマット
#[ユーザーID],[ユーザーパスワード],[仮想 HUB 名] USER_ID_01,USER_PASS_01,VPN USER_ID_02,USER_PASS_02,VPN USER_ID_03,USER_PASS_03,VPN

3.3. システム

3.3.1. 時刻設定

◆ Syslog 通知

本装置のシステム稼働・停止、サービスの起動・停止及び定期稼働を Syslog にて他ホストに対して通知することができます。

本画面の設定項目は以下のとおりです。

項目	説明
通知を行う	Syslog 通知を行うかどうかの設定を行います。
Syslog サーバ 1 ～ 3	Syslog を通知するサーバを IP アドレスまたは FQDN にて設定します。3 台まで設定可能です。
ファシリティ	送信する Syslog のファシリティを設定します。

◆ Syslog 通知

プロセス監視	システム稼働におけるプロセスチェックを定期的(3 分毎)に行います。意図しないプロセスの終了時にアラートが発生します。

※アラート内容はダッシュボードに表示されます。また、AirManage を使用している場合、AirManage 側にもアラートが上がるようになっています。

◆ 時刻設定

タイムゾーン	設置場所のタイムゾーン又は UTC を選択出来ます
PC と時刻を同期	操作用 PC の時刻情報を装置におくり反映させます
NTP サーバー	3 台まで設定可能 指定した NTP サーバーから時刻情報の取得を行います。また、各サーバー毎に NTP オプションを設定可能です。

※ EasyBlocks では NTP サービスが稼働しています。そのため、NTP サーバーとして使用することが可能です。

3.3.2. フィルタ開放

ダッシュボード
Remote Office
システム
ネットワーク
メンテナンス
AirManage
技術情報
基本
フィルタ開放
WEB管理者
マイページ
EasyBlocks
S/N
フィルタ開放
SSH(Port:22)
SoftEther VPN,MS SSTP(Port:443)
SoftEther VPN(Port:992)
SoftEther VPN(Port:5555)
SoftEther VPN(Port:8888)
OpenVPN(Port:1194)
L2TP(Port:1701)
L2TP/IPsec(Port:500)
L2TP/IPsec(Port:4500)
開放する
開放しない
その他(TCP Port) (?)
その他(UDP Port) (?)
操作
保存

◆ フィルタ開放

EasyBlocks のフィルタを開放することができます。Remote Office サービスではサービス提供を行う上でフィルタ開放を行う必要があります。尚、サービス名が記載されている項目については、各インターフェース毎に設定可能です。

SSH(Port:22)	SSH サービスのフィルタ開放を行います。通常では開放する必要はありません。
SoftEther VPN,MS SSTP(Port:443)	SoftEther VPN サービスのフィルタ開放を行います。尚、本ポートは設定用のポート番号となります。
SoftEther VPN(Port:992)	SoftEther VPN サービスのフィルタ開放を行います。

SoftEther VPN(Port:5555)	SoftEther VPN サービスのフィルタ開放を行います。
SoftEther VPN(Port:8888)	SoftEther VPN サービスのフィルタ開放を行います。
OpenVPN(Port:1194)	Open VPN サービスのフィルタ開放を行います。
L2TP(Port:1701)	L2TP サービスのフィルタ開放を行います。
L2TP/IPsec(Port:500)	L2TP/IPsec サービスのフィルタ開放を行います。
L2TP/IPsec(Port:4500)	L2TP/IPsec サービスのフィルタ開放を行います。
その他(TCP Port)	上記項目以外で開放したい TCP のポート番号をスペース区切りにて指定してください。尚、指定したポート番号は全インターフェースに開放されます。
その他(UDP Port)	上記項目以外で開放したい UDP のポート番号をスペース区切りにて指定してください。尚、指定したポート番号は全インターフェースに開放されます。

3.3.3. WEB 管理者

◆ 追加・変更

ユーザー名	WEB I/F にアクセスする WEB 管理者を追加(変更)するユーザー名を設定します。
パスワード	WEB I/F にアクセスする WEB 管理者を追加(変更)するユーザーのパスワードを設定します。

3.3.4. マイページ

◆　登録情報の編集

ユーザー名	ログイン中のアカウントの登録情報を編集するため、ユーザー名は変更できません
パスワード	変更するパスワードを入力します。

3.3.5.　EasyBlocks

◆　使用許諾/オープンソースライセンス

EasyBlocks Remote Office(親機)で使用しているソフトウェアのライセンス情報を見ることが出来ます。

◆ バージョン

EasyBlocks Remote Office(親機)本装置自体のバージョンが確認できます。

3.3.6. S/N

◆ 本体シリアル番号

EasyBlocks 本体のシリアル番号を確認することができます。

3.4. ネットワーク

3.4.1. 基本

ネットワーク設定を行う画面です。設定の手順は以下のとおりです。

1. 各設定項目に値を入力する。
2. 画面下部、操作の保存ボタンをクリックする。
3. 再起動を行う。

設定項目は以下のとおりです。

項目	説明
ホスト名	本装置に割り当てるホスト名を入力してください。使用できる文字は英数字とハイフンです。
ドメイン名	本装置を設置したネットワークのドメイン名を入力してください。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力してください。
DNS サーバ１～３	名前解決に使用する DNS サーバの IP アドレスを指定してください。複数の DNS サーバを指定する場合は、DNS サーバ２および DNS サーバ３にも DNS サーバの IP アドレスを入力してください。

◆ サービスネットワーク（eth0～）

各ネットワークインターフェースの IP アドレス及びローカルブリッジを設定する画面です。設定の手順は以下のとおりです。

1. サービスネットワークとして使用するインターフェースの「静的 IP」、「ローカルブリッジ」、「いいえ」欄のラジオボタンを選択する。
2. 静的 IP の場合、設定項目に値を入力する。
3. 画面下部、操作の保存ボタンをクリックする。
4. 再起動を行う。

設定項目は以下のとおりです。

項目	説明
使用する	サービスネットワークで使用する本装置のインターフェースを「静的 IP」選択してください。 また、ローカルブリッジとして用いるインターフェースに関しては、「ローカルブリッジ」を選択してください。
IP アドレス	サービスネットワークで使用する本装置のインターフェースの IP アドレスを入力してください。

3.4.2. プロキシ

◆ プロキシ

外部への WEB アクセスに HTTP proxy を経由する必要がある環境では、本装置内で用いているソフトウェアのオンラインアップデートに本設定が必要となります。設定の手順は以下のとおりです。

1. 各設定項目に値を入力する。
2. 操作の保存ボタンをクリックする
3. 再起動を行う。

設定項目は以下のとおりです。

項目	説明
アドレス：ポート	HTTP proxy の URL とポート番号を入力してください。

BASIC 認証	HTTP proxy に認証が必要である場合は、ユーザーID とパスワードを入力してください。
非 Proxy アクセスホスト	HTTP proxy を非経由でアクセスする際に用いるホストを”,”区切りにて指定します。また、AirManage 及びダイナミック DNS 機能では HTTP 通信を行っております。非経由にてアクセスしたい場合には FQDN を追加してください。

3.4.3. ルーティング

静的ルーティング設定を行う画面です。設定の手順は以下のとおりです。

1. 各設定項目に値を入力する。
2. 操作の保存ボタンをクリックする。
3. 再起動を行う。

保存が完了すると、画面下部の一覧に設定した内容が反映されます。

設定項目は以下のとおりです。

項目	説明
ネットワークアドレス	パケットの送信先のネットワークアドレスとネットマスク（プレフィックス長）を指定してください。
ゲートウェイ	ゲートウェイの IP アドレスを入力してください。

3.4.4. 状態

以下のコマンドの結果を確認する事が出来ます。

- ip addr show up
- netstat -nr
- arp –an
- cat /etc/hosts
- cat /etc/resolv.conf

3.4.5. ダイナミック DNS

◆ ダイナミック DNS

EasyBlocks 本体が接続しているネットワークのグローバル IP アドレスをダイナミック DNS(ぷらっと DNS)へ登録します。ぷらっと DNS サービスへの IP アドレスのアクセスは 2 分毎にアクセスを行います。

設定項目は以下のとおりです。

項目	説明
使用設定	ダイナミック DNS への IP アドレス登録を行う機能を使用するかを設定します。
ユーザー名	ダイナミック DNS への反映に用いるユーザー名を設定します。

項目	説明
パスワード	ダイナミック DNS への反映に用いるユーザー名に対応するパスワードを設定します。

尚、ダイナミック DNS に関するパラメータの情報について、EasyBlocks 本体に書類として同梱されておりますのでご確認ください。

3.5. メンテナンス

3.5.1. 設定

エクスポート	EasyBlocks 全体の設定をエクスポート
インポート	〃をインポート

本項目でのエクスポート及びインポートでは、Remote Office サービスの詳細設定は含まれません。そのため、Remote Office サービスの詳細設定のエクスポートについては、「3.2.2 ファイル管理」にてダウンロードを行ってください。また、インポートについては設定管理用ツール(SoftEther VPN Server Manager)の Config 編集機能を用いてください。

3.5.2. システムの更新

設定
システムの更新
停止・再起動
サポート
アップデート
オンライン
(確認結果)
更新有無を確認
オフライン
ファイルを選択
選択されていません
実行

設定
システムの更新
停止・再起動
サポート
アップデート
オンライン
更新があります
更新有無を確認
更新予約をする
更新情報
オフライン
ファイルを選択
選択されていません
実行
* Packages list
ebdhcp-webui 1.0.0-0d0 -> 1.0.0-0d1

オンライン	「更新有無を確認」ボタンを押すことによりインターネット接続を用いて、アップデートデータがあるか確認を行います。 また、アップデートデータが存在する場合、「更新予約をする」ボタンが表示されます。このボタンを押し、再起動を行うことで、アップデートが行われます。
オフライン	オフラインアップデート用のファイルを送付することで、インターネット接続がなくてもアップデートを実行します。実行に当たっては、再起動が実施されます。

オンラインアップデートは AirManage サービスを使用している必要があります。
そのため、事前に AirManage サービスへ加入してください。

3.5.3. 停止・再起動

停止	EasyBlocks を停止します
再起動	〃を再起動します

3.5.4. サポート

問い合わせ先	弊社サポートの連絡先を記載しております。
ログ・環境情報取得	不具合等の問い合わせ時には、こちらでダウンロードした情報をお送り下さい。状況確認の参考にさせていただきます。ダウンロードできるデータは、tar + gzip 形式でありご自身で内容をご確認いただくことも可能です。

3.6. AirManage

AirManage は遠隔地に配備した EasyBlocks を管理する機能です。

AirManage はインターネット上に用意している AirManage リモート管理サーバと各 EasyBlocks 間で通信を行い、各 EasyBlocks の管理や制御等を行います。

3.6.1. AirManage

AirManage サービスを使用する場合には、事前に AirManage リモート管理サーバ側に EasyBlocks を登録している必要があります。登録が未完了の場合や確認を行いたい場合は「AirManage 登録」を先に実施してください。

使用設定	AirManage サービスを使用するかの設定を選択します。
適用方法	AirManage サービスに参加する際の設定方法を以下から選択します。 ●サービス加入のみ AirManage サーバへアクセスを行うのみです。コンフィグは適用されませんが、サービスに加入し各種機能が使用可能となります。 ●ゼロコンフィグ(ネットワーク設定保持) AirManage サーバからコンフィグをダウンロードしネットワークの設定以外について EasyBlocks へ適用します。 ●ゼロコンフィグ AirManage サーバからコンフィグをダウンロードし全ての設定を EasyBlocks へ適用します。
サービス適用 URL	サービス加入の際に弊社から連絡のあった FQDN 情報をフォームに入力します。 ※後述の AirManage 登録にて確認まで済ませた場合, フォームは自動で反映されます。
事前確認	「確認」ボタンを押すことでノード側のネットワーク及び設定している URL 情報を用いて、AirManage サーバ側に登録されているか確認を行います

事前確認の「確認」ボタンを押し AirManage が問題なく利用できる状態の場合、「保存＆実行」ボタンが表示されます。「保存＆実行」を押した場合、即座に AirManage を利用する為の再起動処理が行われます。

3.6.2. AirManage 登録

本項目では、EasyBlocks がインターネットへの接続が行える必用があります。

◆ アカウント確認

AirManage のアカウントが存在しているかの確認を行います。存在していない場合、アカウント作成フォームが表示されます。尚、アカウントが存在しテナントに所属していない場合、テナント作成フォームが表示されます。

E-Mail	AirManage サービスのログインアカウントに用いる E-Mail アドレスを入力します。
操作	「アカウント確認」ボタンを押すことにより、AirMange サービスのアカウントが存在しているか確認を行います。

◆ アカウント作成

AirManage のアカウントが存在していない場合、アカウントを作成する必要があります。

アカウント名	AirManage サービスにて表示されるアカウント名を入力します。

パスワード	AirManage サービスにログインする際のパスワードを入力します。パスワードに使用可能な文字は”　”(スペース)を除く半角英数字となります。また、文字数は最低 8 文字となります。
パスワード(確認用)	AirManage サービスにログインする際の確認用のパスワードを入力します。
操作	「アカウント作成」ボタンを押すことにより、AirMange サービスのアカウント作成処理を行います。 作成処理が正常に行われた場合、設定している E-Mail アドレス宛に仮登録受付メールが届きます。メール本文内からのブラウザでアクセスすることで、本登録が行われます。

◆　テナント作成

アカウントがテナントに所属していない場合、テナント作成フォームが表示されます。

テナント記号	ユーザーが所属するテナントをユニークに扱う為、記号(名称)を入力します。入力可能文字は英数字及び記号の”_”となります。
操作	「テナント作成」ボタンを押すことにより、テナントの作成処理を行われます。 既に同一名のテナントが存在する場合には作成できません。

◆　本体登録確認

AirManage サービスに、EasyBlocks 本体が登録されているか確認を行います。登録されていない場合、本体登録フォームが表示されます。

操作	「本体登録確認」ボタンを押すことにより、EasyBlocks 本体が AirManage に登録されているか確認を行います。 既に問題なく登録されている場合には、AirManage の初回アクセス設定部の設定を反映する確認のポップアップが表示されますので、「OK」等の了承するボタンを押してください。

◆　本体登録

AirManage に EasyBlocks 本体の登録を行います。

ノード名	AirManage のテナント内で EasyBlocks 本体をユニークに識別する為のノード名を入力します。 入力可能文字は英数字及び記号の”_”となります。
操作	「本体登録」ボタンを押すことにより、EasyBlocks 本体がテナント一覧で選択しているテナントに対して、入力したノード名で AirManage に登録されます。 正常に登録できた場合、AirManage の初回アクセス設定部の設定を反映する確認のポップアップが表示されますので、「OK」等の了承するボタンを押してください。

登録が完了したら、”3.6.1 AirManage”を参考に AirManage の利用開始を行ってください。

4. Remote Office サービス詳細設定

4.1. 設定管理用ツールのダウンロード

設定管理用ツール(SoftEther VPN Server Manager)のダウンロードを行います。サービスタブのリンクボタンからアクセスまたは以下の URL からダウンロードを行ってください。また、設定管理用ツールは Windows 版を推奨いたします。Windows 版の設定管理用ツールは非インストーラー版及びインストーラー版の 2 種類が存在します。

尚、Mac OS 版については、使用する OS のバージョン依存にて動作しない恐れがあります。

※ダウンロード URL

https://www.softether-download.com/

4.1.1. 非インストーラー版の場合

下図のように選択を行い、対象の設定管理用ツールを選択します。

設定管理用ツールのバージョンは rtm ver.を推奨します。

ダウンロード後、Zip ファイルがダウンロードされますので、解凍を行います。

設定管理用ツールを起動する場合には、「vpnsmgr.exe」を実行してください。

4.1.2. インストーラー版の場合

下図のように選択を行い、対象の設定管理用ツールを選択します。

設定管理用ツールのバージョンは rtm ver.を推奨します。

ダウンロードした、インストーラーを起動しアナウンスに沿ってインストールを行います。尚、インストールするソフトウェアの選択では「SoftEther VPN サーバー管理マネージャ(管理ツールのみ)」を選択してください。

設定管理用ツールを起動する場合には、スタートメニューから「SE-VPN サーバー管理(ツール)」を実行してください。

4.2. フィルタ開放

設定管理用ツールにて Remote Office サービスの詳細設定を行う場合、5555 番ポートを開放する必要があります。また、実際の Remote Office サービス自体の運用を行う場合には、使用する対応サービスのポートを開放する必要があります。

そのため、「3.3.2 フィルタ開放」を参照しフィルタの開放を行ってください。

4.3. 詳細設定

VPN Server としての基本的な設定方法を記載します。詳細な設定に関しては、開発元 WEB サイトで参照可能なマニュアルを参照の上ご利用ください。

4.3.1. 接続設定の構築

管理マネージャーを起動します。初回起動の為、接続先の作成が必要となります。その為、「新しい接続設定」をクリックします。

接続設定名及びホスト名を入力します。また、ポート番号は Remote Office サービスを提供するポート番号へと変更します。

通常の子機からのアクセスには 5555 番ポートを使うため、下図では 5555 へと変更いています。

4.3.2. VPN サーバーの構築

上記で構築した接続先に対して接続を行います。接続が行えない場合、サービスが起動していない、フィルタが開放されていない、ネットワーク的に接続できない等の可能性があります。

初回接続時は、管理者パスワードの設定を求められますので、管理者パスワードを設定します。

初期状態では、管理セットアップウィザードが表示されます。「リモートアクセス VPN サーバー」にチェックを入れ、「次へ」を選択します。画面の指示に従い、仮想 HUB 名の指定、ダイナミック DNS や IPsec/L2TP/EtherIP/L2TPV3、VPN Azure 等を設定します。

尚、仮想 HUB 名は子機と同一にする必要があるため「VPN」として設定してください。

いくつかの画面が表示された後、ユーザー作成とローカルブリッジの設定画面が表示されます。ローカルブリッジについては、事前に WEB UI にてローカルブリッジとして設定したインターフェースをこの画面上で仮想 HUB に接続する物理 I/F として選択しておきます。

ユーザー作成では、ユーザー名、パスワードが最低限必要です。その他パラメータは必要に応じて設定します。尚、弊社での子機の設定作業ではパスワード認証にて行いますので、認証方法はパスワード認証として設定してください。複数のユーザーを作成する場合には WEB UI から CSV にて一括登録が可能ですので、ご使用をご検討ください。

機能設定が完了すると、管理画面の最初に戻ります。次回接続以降は、ウィザードは表示されずに、この画面から開始されます。

尚、子機からのアクセスは指定がない限り TCP ポート番号 5555 を用います。そのため、5555 のポート番号の状態は「動作中」としてください。

5. 子機の設置

5.1. 有線対応子機(型番:EBA7/ROC)の場合

5.1.1. 設置ステップ

5.1.2. 子機のネットワーク接続

5.1.2.1. 家庭用ネットワーク接続

モデム・無線 LAN ルータ等の家庭用ネットワークを構築している Ethernet ポートと EasyBlocks Remote Office(子機)の ETHER-0 ポートを LAN ケーブルで接続します。尚、本項で使用する LAN ケーブルは付属品をご使用ください。

5.1.2.2. PC とのネットワーク接続

会社のネットワークに接続したい PC を EasyBlocks Remote Office(子機)に対して LAN ケーブルにて ETHER-1 ポートに接続します。尚、PC – EasyBlocks Remote Office 間にスイッチングハブを入れても問題はありません。本項で使用する LAN ケーブルについては設置環境依存となりますので、別途お買い求めください。

5.1.3. 子機の電源投入

EasyBlocks Remote Office(子機)のネットワーク接続完了後、AC アダプタを接続します。

電源投入後、起動を開始し約 3 分程度にて親機側のネットワークに参加可能となります。

5.2. 無線対応子機(型番:EBB0/ROC)の場合

5.2.1. 設置ステップ

5.2.2. 家庭用ネットワーク接続

EasyBlocks Remote Office(子機)の USB 給電二又ケーブル/Ethernet 接続用コネクタに添付品の USB 給電二又ケーブル(Ethernet 付き)を接続します。

モデム・無線 LAN ルータ等の家庭用ネットワークを構築している Ethernet ポートに USB 給電二又ケーブル(Ethernet 付き)の Ethernet ケーブルを接続します。

5.2.3. 子機の電源投入

EasyBlocks Remote Office(子機)のネットワーク接続完了後、電源を投入します。

尚、USB 電源と AC コンセントが離れている場合には、電源延長ケーブルをお買い求めご使用ください。

電源投入後、起動を開始し約 1 分程度にてサービスが稼働しています。

5.2.4. PC とのネットワーク接続

EasyBlocks Remote Office(子機)はアクセスポイントになります。そのため、接続する PC 等は無線ネットワーク設定にて、SSID を検索して無線接続します。

※SSID は EasyBlocks Remote Office 本体に貼付されているラベルの ID となります。

※パスフレーズ(ネットワークセキュリティキー)は管理者へご確認ください。

無線接続完了後、無線接続した PC 等が親機側のネットワークに参加します。

6. その他利用方法

6.1. SSH でログイン(親機のみ)

本装置の IP アドレスに対して、SSH クライアントソフトウェア(Teraterm や putty 等)を用いて操作します。出荷時の IP アドレス・パスワード情報は、「出荷時設定情報」を参照ください。

6.2. シリアルコンソールでログイン(親機のみ)

EasyBlocks の CONSOLE ポートと操作用の PC を接続し、シリアルコンソールソフトウェア(Teraterm や putty 等)を用いて操作します。コンソール用変換アダプタは、PC 側のシリアルポートに直接接続します。PC 側にシリアルポートが無い場合は、別途 USB-シリアル変換アダプタ等をご用意ください。

ボーレート	115200bps
データ	8bit
パリティ	なし
ストップビット	1

6.3. ファクトリーリセット(親機のみ)

工場出荷状態に戻す場合、コンソールケーブルを接続しコンソールソフトウェアにてターミナルを表示してください。EasyBlocks 本体を再起動し、起動時の Grub メニュー表示時に”v”キーを入力し、”Factory Reset Mode”にカーソルを合わせて Enter キーを押してください。これにより工場出荷状態へと戻ります。

尚、工場出荷状態へと戻る為、設定等は消えますのでご注意ください。

6.4. BIOS 設定(親機のみ)

本装置を起動し、画面表示が出た所で Esc キーを押すと BIOS 設定画面に入ることが出来ます。BIOS 設定値は変更しないで下さい。誤って変更した際には以下の設定を行って下さい。

[Save & Exit] - [Restore Defaults]と選択してください。

7. 注意事項

7.1. 電源断について

EasyBlocks Remote Office(親機)では、SSD ストレージを搭載しております。唐突な電源断は故障の原因となりますので、電源を落とす場合は以下のいずれかを実施してください。

・WEB UI からの停止

・コンソールまたは SSH によるログイン後の poweroff コマンド

・PWR スイッチを押しての停止

また、EasyBlocks Remote Office(子機)については、SSD は未搭載です。動作が不安定な状態などが発生した場合、電源ケーブルの抜き差し等にて電源断を実施してください。

7.2. ポート転送について

EasyBlocks Remote Office(親機)をルーター配下に設置する場合、ルーターから対象サービスポートに対してポート転送を行う必要があります。そのため、ルーターのポート転送を設定してください。

尚、ご指定のない限り EasyBlocks Remote Office(子機)は 5555 番ポートにてアクセスを行います。そのため、5555 番ポートアクセスを EasyBlocks Remote Office(親機)へと転送が必要となります。

7.3. アクセスポイントの自動リセット(型番:EBB0/ROC のみ)

無線対応子機(型番:EBB0/ROC)は、アクセスポイント安定化の為 AM3:30～AM3:35 の間に一度アクセスポイント機能のリセット処理が行われます。この時、無線接続クライ

アントとの通信が完全に切れますのでネットワーク越しの作業については一時中断してください。

7.4. 無線接続クライアント数について(型番:EBB0/ROC のみ)

無線対応子機(型番:EBB0/ROC)は、アクセスポイント運用となります。最大 5 台まで無線対応機器の接続を許容しており、6 台目以降については接続できません。

尚、通信に負荷がかかるような状態の場合には、他の無線クライアントへ影響がありますので、その場合は 1 台のクライアントのみで運用してください。

7.5. 子機の通信速度・負荷について

本製品では親機 - 子機間にて暗号化通信をしております。暗号化強度が高い場合には、子機側の負荷が高くなり通信速度が担保できない場合があります。そのため、暗号化強度はセキュリティとトレードオフとなりますが通信速度や安定性を重視する場合には、親機側にて暗号化強度を下げて運用してください。

ぷらっとホーム株式会社

〒102-0073　東京都千代田区九段北 4-1-3　日本ビルディング九段別館 3F